

2016年度 9月入学式 総長式辞

皆さん、ご入学おめでとうございます。

本日ここに2016年度9月入学式を挙げるにあたり、新入生の皆さんおよびご列席のご家族・ご友人の皆さまに、早稲田大学を代表して、心からのお祝いと歓迎のご挨拶を申し上げます。

このたび、晴れて早稲田大学に入学されたのは、学部生383名、大学院生615名の合計998名に上り、そのうち83%にあたる828名の方が、海外からの留学生です。

広く世界各地から多くの優れた学生をお迎えできたことを、大変うれしく思います。

早稲田大学は、個性豊かな学生が集い、自由な校風の下で、互いに切磋琢磨し、それぞれの才能を多様な分野で開花させてきたという伝統を誇りにしています。新入生の皆さんも、そうした伝統を受け継いで、独創的な思考力・冷静な判断力・確固たる信念に基づく実行力などを存分に伸ばしてくださるものと期待しています。

早稲田大学は、今から134年前、大隈重信らによって設立された私立大学です。

大隈重信は、日本の通貨単位を「円」と定めたり、会計検査院を設立するなど、財政改革や産業政策にも功績を挙げ、後に内閣総理大臣を2度、外務大臣を5回務めるなどした偉大な政治家ですが、1881年にはいったん公職を辞し、1882年10月に、本学を設立しました。

当時の日本は、政府主導で近代化を進めようと考えており、国立大学では官僚と技術者を養成するために欧米の学問を直輸入する形での教育がなされていました。

これに対して、大隈重信や小野梓らの本学創立者たちは、これとは異なり、おおよそ次のような考えをもって、本学を創りました。

それは、

第1に、真の近代国家を作り上げるには、単に法律や制度を作るだけではならず、それを支える優れた市民を育成する必要がある、そのためには、できるだけ多くの人が高等教育を受け、できるだけ早くその成果が現れるようにしなければならない、

第2には、学問は、権力や国の利益に奉仕するものではなく、自由で独立のものでなければならない、

第3に、学問の成果を私利私欲や一党一派、一国の利益のために用いようとするのではなく、社会全体のため、世界全体のために活用しようとする利他的な人格を涵養しなければならない、

第4に、西洋の文明は尊く、東洋の文明は劣っているという前提は誤っており、東洋文明と西洋文明の調和を図らなければならない、

というものであります。

こうした建学の理念は、「学問の独立」「学問の活用」「模範国民の造就」を3本柱とする「早稲田大学教旨」として、今日まで受け継がれています。

そして、この理念に共鳴する若者が全国各地から、また世界各地から早稲田に集まり、わずか80名の学生で出発した本学は、現在、学部・大学院をあわせて5万人もの学生数を誇る大規模大学となっています。

また、建学直後の1884年に最初の留学生を受け入れて以来、アジアを中心とする世界各国から多くの留学生を迎え入れてきました。今日では、世界約100か国から5千人を超える外国人学生が在籍しています。

とりわけ、本日ご来賓としてご来校いただいている郝平(Hao Ping)博士ゆかりの北京大学および中国とは大変深い関係があります。1899年に最初の留学生を迎えて以来、極めて多くの中国人留学生が本学で学んでまいりました。それらの中国人留学生の中には、後に中国共産党の創設者となる若き日の李大釗(Li Ta-chao)元北京大学図書館長および陳独秀(Chen Tu-hsiu)元北京大学文科学長の両先生をはじめとして、中国の歴史に足跡を残す偉人たちが数多く含まれています。

また、在学生の海外への送り出しについても、1900年に始まり、今日では毎年4千名を超えており、外国人学生受け入れ数とともに日本一の数になっています。是非、教室や学生寮で、またサークル活動などを通じて、活発に国際交流をしていただければと思います。

こうした伝統と校風を受け継ぎ、本学の建学の理念を体現している本学の卒業生は、極めて幅広い分野で、国際的に活躍しています。

例えば、学術分野においては、古く 1895 年に本学を卒業し、日本人として初めてイェール大学教授に就任し、日米開戦の回避のために最後まで努力した朝河貫一、1896 年に本学を卒業し、コロンビア大学に日本文化研究所を設立して、本学名誉博士ドナルド・キーンをはじめとする多くの優れた日本研究者を育てた角田柳作などがいます。政治・外交の世界では、戦後 70 年の間に 7 人の内閣総理大臣を輩出していますし、第二次世界大戦中に、本国の指令に反して、「命のヴィザ」を書き続け、6 千名ものユダヤ難民の命を救った杉原千畝や日中国交正常化に尽力した廖承志 (Liao Cheng-zhi) などがいます。経済界では、ソニー創業者の井深大、サムスン電子の李健熙 (イ・ゴンヒ)、ユニクロで有名なファーストリテーリングの柳井正などのチャレンジ精神にあふれた実業家があり、芸術分野では、村上春樹をはじめとする極めて数多くの作家、音楽家、俳優、映画監督、そして本日ご来賓の山田太一様などの脚本家などがおり、スポーツ界においても数え切れないほど多くのアスリートが世界で活躍しています。

このように各界で活躍している卒業生の多くが、早稲田大学での学生生活を、自身の「原点」という言葉で表現されています。

皆さんが、ここ早稲田大学で一生付き合い続けることのできる最高の友と出会い、互いに切磋琢磨することによって、自分の「原点」となる学びと経験を重ね、卒業後は、それぞれが自らの信じる道を切り開き、世界各地で、またあらゆる分野でリーダーシップを発揮し、世界の平和と人類の繁栄のために大いに活躍してくださることを心から期待しています。

さて、今日の社会は、グローバル化が急速に進展し、科学技術が急速に発展し、豊かな生活を享受することができるようになった一方で、資源の枯渇、環境破壊、金融不安、少子高齢化、地域間格差など地球規模の課題が深刻さを増しています。

科学技術の急速な進歩が及ぼす影響について、ある研究者は、「今後 10～20 年程度で、今ある仕事の半分以上がコンピュータやロボットにとってかわられる」と予測しています。こうした予測が当たっているとすれば、現在の社会を前提として既存の知識を覚え込んだだけでは通用せず、未知の課題について、どこに解決の鍵があるかを見抜き、綿密な調査・分析をして解決策を見出していく洞察力と思考力が、そして、コンピュータでは置き換えることのできない人間的な感性などが一層重要視されるようになってくると思われます。

また、グローバル社会でリーダーシップを発揮するには、外国語が堪能であるだけでなく、価値観や文化的背景の異なる人びとと相互に理解し合い、その信頼を得て協力関係を作り上げ、協働していく力を身につける必要があります。

また、大隈重信もしばしば語っていますが、新しい試みをする、成功することよりも失敗することの方が多いものですが、失敗に落胆せず、失敗に打ち勝って、さらに新たな挑戦をする勇気を持たなければなりません。

皆さんには、学生時代にできるだけ多くのことがらに挑戦し、失敗を重ねる中から新たな発見をし、友人たちと語り合うことで、自分の頭で考える力と人間的な感性に磨きをかけて、社会に羽ばたくための準備をしてもらいたいと思います。

早稲田大学は、そのための多様な学習環境を用意しています。例えば、学部の枠を超えて幅広い学びをすることのできる3千もの全学オープン科目や、少人数の対話型、問題発見・問題解決型授業も充実していますし、ボランティア、インターンシップやフィールドワークなどの体験型学習には毎年延べ1万5千人ほどの学生が参加しています。本学の優れた教育・研究環境をぜひとも余すことなく活用してください。同時に、文化的背景や価値観の異なる様々な国の学生と共に学び、議論し、相互理解を深めることで、総合的な人間力を陶冶してください。

新入生の皆さんのこれからの大学生活が実り多いものになることを心から願って、お祝いと歓迎の挨拶とさせていただきます。

皆さん、ようこそ、早稲田大学へ。

本日は、誠におめでとうございます。

以 上